



2007年 年頭ごあいさつ

セブン&アイ HLDGS.会長 **鈴木敏文**

明けましておめでとうございます。

マクロ経済においては景気拡大が続き、「いざなぎ景気」を超えたといわれています。しかし、それは主に輸出産業の好調な伸びを背景としたもので、国内の個人消費は、依然として厳しい環境にあります。消費飽和といわれる現在の市場環境の中で、私たちがいっそうの成長を図るには、自己差別化を不断に進め、お客様のニーズを掘り起こしていくことが不可欠です。

セブン&アイ HLDGS.は、2005年9月に設立後、ミレニアムリテイリングの統合、ヨークベニマルの100%子会社化、セブン イレブン・ジャパンによる米国のセブン イレブン・インクの100%子会社化等を実施してきました。このような事業環境の整備を踏まえ、2007年は、グループシナジーの拡大、企業価値最大化に向けた取り組みを、いっそう深耕してまいります。

「ブレイクスルー思考で未来を拓く」

お客様のニーズがますます激しく変化し、新しい商品・サービスが求められている中、私たちは何よりも自己革新が求められています。そのためには、日々の仕事において、過去の経験を捨て去り、将来、成果を手にするにはいま何をなすべきかを考え、行動する「ブレイクスルー思考」がますます重要になっています。今年も、全員でブレイクスルー思考を徹底し、それぞれの場で生産性を高め、いまのお客様にご満足いただけるサービスの向上に努めることで、より大きな成果を上げられるよう期待しています。

「各事業会社の自立した成長戦略」

セブン&アイ HLDGS.として連携を強化し、シナジー効果を上げていくと同時に、各事業会社は、自らの成長戦略を明確に持ち、自己革新を図るといった自立的な事業展開が不可欠です。各社の自主的な取り組みが、セブン&アイ HLDGS.全体の成長基盤となり、企業価値の最大化を生み出していきます。

「グループMD(マーチャндаイジング)の推進」

グループシナジー強化の重要なテーマであるグループMDでは、昨年も着実に成果を上げてきました。また、セブン イレブンの開発商品をグループ各社で販売する取り組みも広がっています。さらに、グループ全体の食品のMD改革に向け、新たなプロジェクトもスタートしました。2007年は、このようなグループMDのいっそうの推進を図ります。

「IT事業戦略の強化」

7つの事業領域の一つであるIT戦略の強化も今年の重要なテーマの一つです。昨年は、イトーヨーカドーの一部店舗でネット・スーパー事業をスタートさせ、お客様から大きな支持をいただきました。今年、このネット・スーパー事業を80店舗に拡大する計画です。このように新たなIT戦略にも積極的に挑戦していきます。

(2007年1月4日 年頭朝礼要旨)